

研究課題名	抗腫瘍薬に関連した薬剤性肺障害と抗腫瘍薬の効果と有害事象に関する多施設観察研究
実施責任者	所属・職名： 呼吸器内科 部長
	氏名： 島 浩一郎
研究の概要	<p>薬剤性肺障害は、薬剤に対する過敏反応や薬剤そのものによる肺へのダメージの結果として生じる間質性肺炎のことです。中でも日常臨床で最も薬剤性肺障害を起こす頻度の高い薬剤に抗悪性腫瘍薬があります。</p> <p>近年の癌治療の進歩に伴い、分枝標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など、従来の抗癌剤とは異なる作用機序の薬剤も次々に実用化されていますが、多くの場合副作用も従来の薬剤とは異なっており、薬剤性肺障害に関しても頻度や予後に関する情報が乏しく、対応に苦慮する場合も少なくありません。</p> <p>今回の研究の目的は、肺癌の治療中に、まだデータの不十分な新規の抗悪性腫瘍薬により引き起こされた薬剤性肺障害の臨床的特徴、発症予測因子や予後に及ぼす影響を明らかにし、同時に抗悪性腫瘍治療の効果を予測できる因子を評価することです。</p> <p>この研究の症例適格基準に該当した患者様の過去の診療録を用いて調査します。</p>
対象となる個人情報	<p>性別、年齢、病歴、治療歴、副作用等の発生状況</p> <p>血液などの検査データ</p> <p>CT、レントゲン写真などの画像データ等</p>
実施の期間	西暦 2009 年 01 月 01 日より
	西暦 2021 年 03 月 31 日まで
研究対象	上記期間中に、当院呼吸器内科にて肺がんと診断されて、抗悪性腫瘍薬を用いた治療を受けられた患者様。